とうべつ歴史余話

第２回：当別町役場の歴史

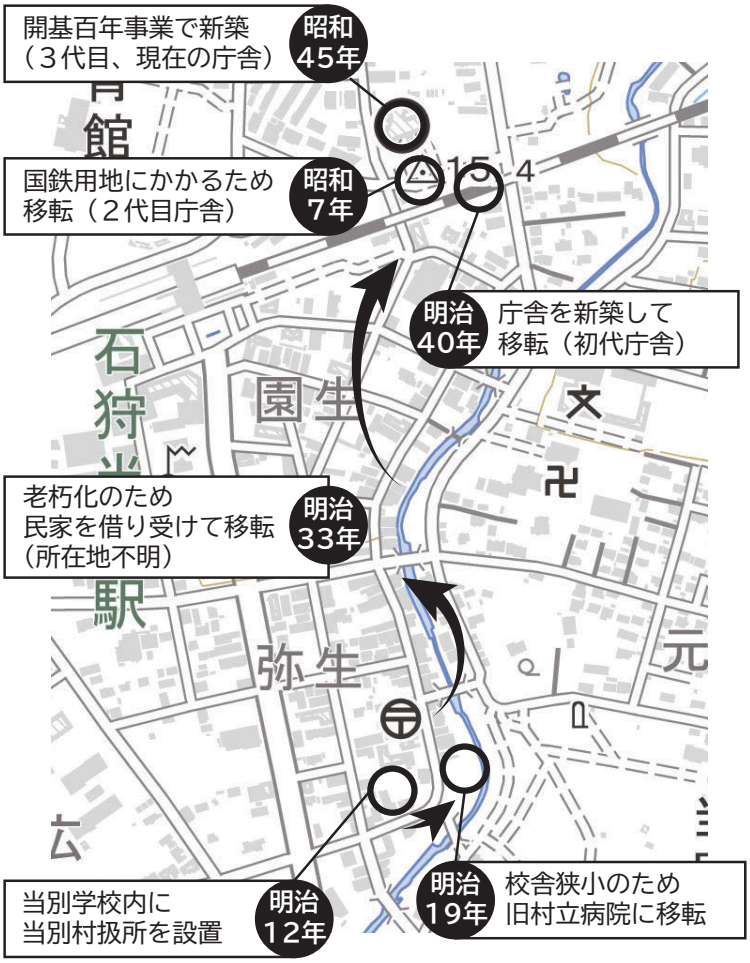
当別町史の編さんにあわせて先月から始まった、まちの歴史に関する連載の第２回は、役場の歴史をご紹介します。

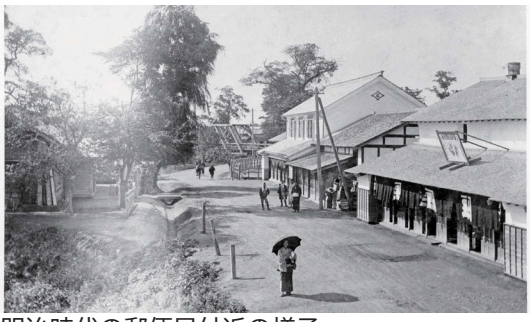
開拓当時、行政に関する相談は、石狩にあった第２大区区役所まで出向いていましたが、交通上不便なことを伊達邦直公が北海道開拓使に願い出たところ、必要性が認められ、明治 12 年１月に当別学校（下川通（現在の弥生）117 番地）内に当別村扱所を設けて戸長を置くこととし、初代戸長に吾妻謙が任命されました。

その後、明治 19 年から旧村立病院、西小川通内の民家を借り受けるなど転々としましたが、村の拡がりに伴い手狭になり、明治 40 年に西小川通（現在の白樺町）57 番地に 108 坪の庁舎を新築。その後、国鉄札沼線の敷設に伴い、昭和７年に木造２階建ての庁舎を隣に新築して移転しました。

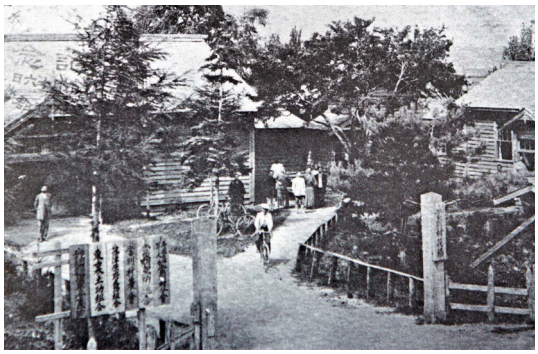
現在の庁舎は、昭和 45 年に当別町開基百年事業の１つとして建設され、今日まで使用されています。

■役場の場所の変遷

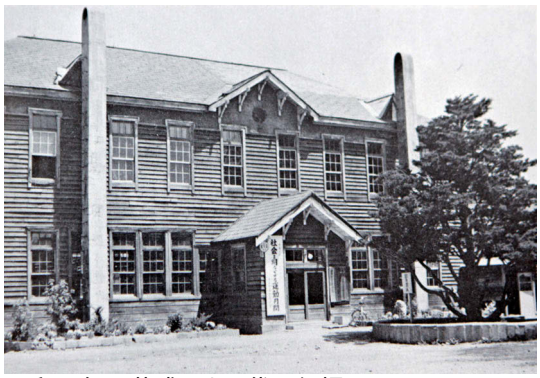




明治時代の郵便局付近の様子
写真左側が役場が入っていた旧村立病院



明治40年に落成した初代役場



昭和７年に落成した2代目役場

■問合せ　総務課総務係　（☎ 23 － 2330）